



E-Mail : nfduj@zenkoku-kowan.jp

全国港湾

NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN (ZENKOKU-KOWAN)

(発行所)
全国港湾労働組合連合会
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館1F
電話：03-3733-2561
FAX：03-3733-2627
発行人：玉田雅也
定価：30円(組合費を含む)

(毎月1回15日発行・平成7年8月18日)
第三種郵便物認可
2022年6月15日 第351号

ITF(国際運輸労連) 港湾部会委員会を開催

自動化・機械化は雇用を奪い、労働組合をつぶす

ITFは、22年6月28(29日) (日本時間17(23時)に、ロンドンの本部でのリアル参加とバーチャル参加の統合(ハイブリッド形式)による港湾部会委員会を開催した。また、部会に続いて、6月30日(7月1日)に、公正慣行委員会(FPC)運営委員会がおこなわれ、全国港湾はバーチャルで参加した。

主たる討議課題は、主に港湾を起点とするサプライチェーンの対策・組織化、港湾の機械化・自動化に対するたたかいで、全国港湾は「仕事を奪う機械化反対」をITF方針の軸にすべきと発言し、参加者から多くの支持を集めた。

港湾を起点に見たサプライチェーンのあらゆる現場で、非正規労働や労働組合権をなく奪うような働き方が蔓延し、港湾にマイナスの影響が出ている事が多く語られた。

ITFは、港湾部会に對策チームを立ち上げ戦略的キャンペーンの分析を行っている。港湾労働組合がサプライチェーンとステークホルダー(関係当事者)として協議できる条件を作ることで、サプライチェーン全体で労働問題に関する基本的水準を設定する事を支援し、組織化、団体交渉権の確立を支援することを戦略目標としている。

21年3月、ILWUとITFはILWU主導のサプライチェーン・ロジスティクス・運輸プロジェクトの間に、昨年のリスボンの会議で「日本の産別交渉体制・産別労働協約交渉の再構築を目指す闘いを支援する声明」を採択していたが、そのたたかいかも続いていることを報告します。

声明にあるように、「産別最低賃金制度に係る団体交渉」が独禁法に触れるかどうかを争っていますが、東京労働委員会は、全国港湾の主張を認め、いま中央労働委員会でも争っており、7月には結審する予定です。産業別の団体交渉、産業別の労働協約が独占禁止法に抵触するという議論は、ヨーロッパやアメリカでは決着済みのことで、私たちも50年間産別交渉を行い、労働協約を締結してきました。いまになって、このような議論を持ち出すことは、産業別の団体交渉や労働協約を否定しようとする許せない暴挙と考えています。

この議論の中で、ILWUの協約改定の取り組み紹介とともに、全国港湾の取り組みが紹介され、柏木委員長が中労委のたたかいを中心に発言した。

柏木委員長の発言

はじめに、昨年のリスボンの会議で「日本の産別交渉体制・産別労働協約交渉の再構築を目指す闘いを支援する声明」を採択していたが、そのたたかいかも続いていることを報告します。



「仕事の未来とテクノロジー」というテーマで旺盛な議論が展開された。

多くの国で行われているのは、「労働者の機械への代替」であり「労働者の雇用を奪うもの」で、究極は

ニュースが日本のメディアからも流れていました。私たちのたたかいは後方支援して頂いたように思っていますし、その、詳しい内容を文書に頂ければありがたいと思います。

▽日本では、名古屋港の一部でAGVが導入され、それ以降も1基を2名で操作するよう要求し、産別協定と地区産別協定でこれを確認するにAGVの導入になったという経過があります。

▽私たちが、遠隔操作であるにも関わらず、協定を破る動きが生まれ、直ちに是正するよう要求し、協約通りに戻すことも約束させました。未来の仕事が、労働者の雇用を奪うものになってはなりません。

▽安易な機械化・自動化に



この議論の中で、全国港湾として柏木委員長が発言した。発言内容は、別掲の通りであるが、前述したとおり、現場の雰囲気の中、多くの拍手と支持の発言があった。

柏木委員長の発言

▽オークランド港が自動化が奔流だという事を実感する場面となった。

港湾と船員と団結強化・POCCキャンペーンの発展へ

ITF(国際運輸労連)公正慣行委員会開かれる



に加え、コロナ禍での船員の救済をはじめ、世界で奮闘するインスペクター125名(全国港湾は藤木インスペクター)の活躍ぶりが強調され、この方たちの奮闘がなければITFの存在はないと発信された。具体的には3000万を超える未払い賃金を回収し、遺棄された船員の賃金も3000万が弱回収するなどの実績も報告された。

POCCキャンペーンの強化、FOC/POCCキャンペーンの最新状況の報告とともに、とりわけPOCCキャンペーンの強化のための

議論では、未組織船対策・FOCの組織化、ITFの改定準備が中心の議題となった。その中では、船員のラッシュを認めない「港湾条項の強化」も強調された。また、FOC対策

見直しが検討され、例えば、インスペクターと同道して港湾労働者が本船の安全点検ができることも検討してはどうかとの意見も出され、書記局での検討が要請された。

ヨルダン港で爆発事故 / 参加者一同で黙祷を捧げる

安全と老朽安全装備の交換求めスト/ITF支援確認

6月28日に起きたアカバ港(ヨルダン)でのタンクコンテナの爆発によって、多くの港湾労働者や船員が死傷したことが会議の冒頭

は絶対に反対です。機械化・自動化は船社や荷主の利益を生むだけであり、ILO O137号条約では、近代化のメリットは労働者に還元すべきだとされています。

▽ILWUのアダムス委員長は、外国の船社や荷主が、自国民のための港湾を勝手に自動化し私たちの雇用を奪っていることを強く非難しています。

▽港湾の職場を機械に代えるな、仕事を奪って未来はない。このメッセージを世界に発信し、ILOやICAにも労働者削減の荷役方式にブレーキをかけることをITFとして取り組むことを求めて発言としました。

▽私たちが、遠隔操作であるにも関わらず、協定を破る動きが生まれ、直ちに是正するよう要求し、協約通りに戻すことも約束させました。未来の仕事が、労働者の雇用を奪うものになってはなりません。

▽安易な機械化・自動化に

ギグワークを知っているだろうか。ギグワークとはインターネット等を通じて請け負う単発の仕事のこと。柔軟で自由な働き方から魅力的に見えるが、問題が山積している。最も大きな問題は労働法規の脱法だ。委託された業務に対して報酬が支払われるため、時間外、休日、深夜手当等はつかないし、最賃保障や解雇規制もなく、職を失っても失業保険が使えない。また、実態としては継続的な労働提供がなされているにもかかわらず、事業者側の一存で「アカウンストップ」とされて仕事を失うリスクがある。報酬も一方的に著しい不利益変更がなされるケースもある。様々なプラットフォーム型事業が、コロナ禍で急拡大したが、各事業者とも立ち上げ期は働き手の確保のために高い報酬など好条件を提示するが、寡占的なポジションを確保すると条件の切り下げへと転じている。特に問題となっているのが、収入維持のために長時間労働を余儀なくされている人が増えている。長時間労働による過労に伴う事故も発生している。労災保険も適用されず、また事故相手への補償も個人請負の自己責任が問われる場合もある。多くの場合で労働法が適用されるべきだが、未解決、未整理のまま放置されているのが日本の現状だ。

「組合弾圧に抗議 会議参加者全員でエックアドル大使館に抗議行動」

エックアドルで港湾労働組合の執行部を拘留する事態が起きている。政府の規制の交換を求めてストライキを決定している。ストは少なくとも4日以上続いている。ITFとしてスト支援の確認を行った。

安全確保は労働組合に共通する第一に役割であることとを再認識される場面であった。会議の議長団からは、原因究明と二度と繰り返さない決意を込めて組合の日常活動を点検しようと呼びかけた。参加者は誰の顔にも、安全への決意がみなぎっていた。

組合弾圧に抗議 会議参加者全員でエックアドル大使館に抗議行動

エックアドルで港湾労働組合の執行部を拘留する事態が起きている。政府の規制の交換を求めてストライキを決定している。ストは少なくとも4日以上続いている。ITFとしてスト支援の確認を行った。